

唐津市立相知中学校 学校の主なきまり【前文】

1. 基本的な考え方

学校の主なきまり(以下、校則)の意義・位置付けは、生徒指導提要(文科省 令和4年12月6日)により以下のように整理されている。

- ・生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために、生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定められる。
- ・各学校が教育目標を実現していく過程において、生徒の発達段階や学校、地域の状況、時代の変化等を踏まえて、社会通念上合理的と認められる範囲において、最終的には校長により制定される。
- ・学校教育において社会規範の遵守について適切な指導を行うことは重要であり、学校の教育目標に照らして定められる校則は、教育的意義を有する。
- ・校則の制定にあたっては、少数派の意見も尊重しつつ、生徒個人の能力や自主性を伸ばすものとなるように配慮することも求められる。

以上のことを踏まえ、「自分たちの決まりは、自分たちで作って、自分たちで守る」という民主主義の基本を身につけながら、自ら判断し行動できる生徒を育成することを目的として、校則とそれに基づく生徒指導に取り組むものである。

2. 校則の運用

校則に基づく指導を行うにあたっては、校則は生徒のためのもの、生徒の将来のためにあるということを忘れてはならない。生徒の管理のために校則による生徒指導が行われることがないようにすることが重要である。規則の本質的な意味や意義を指導することなく、ただ外見の取り締まりになったりすれば、校則の教育的意味を失ってしまうことになる。そうならないよう生徒の内面を磨く、教育的な意味をもつ「必要な校則とは何か」ということを常に問い続けることが必要である。

さらに、校則に基づく指導の効果を上げるためには、その内容や必要性、制定した背景等についても生徒や保護者、地域と共通理解を図ることが重要である。そのために、普段から学校内外の関係者が参照できるように学校のホームページ等に公開しておくことや、入学時や年度初めなどの機会を捉え、あらかじめ生徒や保護者、地域に周知するなどしておく必要がある。

その上で校則に違反した場合には、違反に至る背景など生徒の個別の事情や状況を把握しながら、内省を促し、主体的・自律的に行動することができるようにするなど、教育的効果をもつものとなるように配慮しなければならない。

3. 校則の見直し

(1) 見直しの目的

校則については、学校の教育目的に照らして適切な内容か、現状に合う内容に変更する必要があるか、社会通念上許容される範囲か等を常に考え、絶えず見直しを行うことが求められる。学校を取り巻く社会環境や生徒の状況が常に変化するため、生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえ、絶えず積極的に見直し、

その合理性を検証する必要がある。

さらに、校則によって、教育的意義に照らしても不要に行動が制限されるなど、マイナスの影響を受けている生徒がいないか、いる場合にはどのような点に配慮が必要であるか、検証・見直しを図ることも重要である。

(2) 見直しの基本的な考え方

校則は、最終的には校長により適切に判断される事柄であるが、生徒や保護者等の学校関係者からの意見を聴取したり、生徒会や保護者会といった場において、校則について確認したり議論したりする機会を設けるなどして、生徒や保護者、地域が校則の見直しの過程に参画することにより、その必要性の共通理解が図られ、校則を自分たちのものとして守っていかうとする態度を養うことにつなげることが大切である。

なお、校則見直しの際は、

- ・子どもの生命や健康に影響を及ぼす可能性がないこと。
- ・人権尊重の精神に立ち、差別等がないこと。
- ・生まれもった性質に対して配慮されていること。
- ・不合理な男女の区別等がなく、多様性も尊重させていること。
- ・社会通念上合理的と認められる範囲となっていること。

ということなどに留意して見直すことが重要である。

4. 校則の見直しについて

- ①各学級等で、見直してほしいことを議論する。また、生徒会の目安箱や生徒会役員を通じて生徒の意見として聴取する。
- ②生徒代表は、生徒指導担当の職員と変更・見直しの妥当性について協議する。
- ③変更や見直しが必要な場合は、職員会議等で生徒会から提案して協議し、共通理解を図る。また、保護者の共通理解を図るために、育友会本部役員等からも意見を聴取する。
- ④最終的な決定については、学校長の権限により行う。なお、決定した内容については、学校ホームページ等で公開し、必要に応じて説明をする。